

令和 8 年度福岡県職業能力開発審議会（第 1 回） 議事録
（令和 8 年 7 月 3 日開催）

1 諮 問

2 開 会

3 委員紹介

4 会長挨拶

5 議 事

（1）第 12 次福岡県職業能力開発計画について
（事務局から資料に基づき説明）

（質疑応答）

①課題の内容について（P25～P29）

（委員）

（P1）女性の無業者が 27 万人とあるが、このうち家族のケアや妊娠出産等のため退職された方の割合を県で把握しているか。

（事務局）

国の就業構造基本調査の結果であり、県では把握していない。

（委員）

（P7, P27）県内の新規学卒者の卒業後 3 年以内の離職率について、中学校、高等学校、短大等、大学、いずれにおいても全国より高いのはなぜか。

（事務局）

福岡県は九州随一の求人数で転職市場も活性化しており、労働者が流動しやすい環境が整っていることが要因であると考えます。

（特別委員）

第 11 次計画の施策体系図（P25）と第 12 次計画の施策体系図案（P30）の関係を示した表をいただきたい。

（事務局）

次回の審議会時に用意する。

（委員）

全国的に子どもの数は減っている一方で、不登校の数は増え続けている。卒業すれば就職につながることが多いが、途中で辞めるとその後のフォローが難しい。高校等を辞めた方がアクセスできるような施策があればよい。

また、制度の変更により手続き等で外国籍の方が不利益を被る事象が近年増えている。そのような方の支援ができないかと考えている。

(事務局)

ご意見いただいた内容は、教育庁とも共有する。高等技術専門校等に入校される方についても配慮が必要な方が増えている。精神保健福祉士を配置するなど丁寧に対応している。

②成果指標について

(事務局)

成果指標については、第2回の審議会で議題とさせていただく予定。事務局案を作成するにあたり、アイデアをいただければと考えている。第11次計画では、主に高等技術専門校等の就職率を指標としており、第12次計画においても継続したいと考えている。もう少し大きな視点で、産業を支える人材を育成する観点が重要であるため、就業率も指標になるのではと考えている。また、職業間の隔たりを少なくするというのも一つの視点になると思われ、職業別の有効求人倍率も指標になるのではないかと検討しているがいかかがか。

(委員)

就業率という場合は、自営の方も含まれるのか。

(事務局)

含まれる。

(委員)

第一次産業に就業している方とオフィス内に就業している方という視点は、分析の指標となるのではないかと。

(事務局)

ご意見参考としたい。

③施策体系図について (P30)

(委員)

第12次計画を策定するにあたり、目標や目指す先を示した青写真があった方がよい。県内の主な職業別有効求人数・求職者数の表(P4)が今の福岡県を表す重要な資料だと思う。有効求人数と求職者数のアンマッチを改善するのが目指す方向である等の方針があった上で、それを落とし込んだものが施策体系図になるという流れがあると伝わりやすいのではないかと。目標を皆と共有していただければと考える。

(委員)

前委員の意見に一定賛同する。職種別の有効求人数と求職者数のミスマッチの改善に向けては、①既に就業している人材のリスクリングを通じた労働移動の促進、②新たに社会に出る人材を対象とした産業界と教育界の連携による戦略的な人材育成、という2つが重要な柱になると考える。リスクリングは労働移動とセットで捉えるべきであると認識している。〈取組の方向性〉(P26)に労働移動という言葉がないのは、本計画が職業能力開発計

画であり、労働移動まで踏み込みづらいためと推察する。前委員の意見も踏まえて目標設定を行うのであれば、労働移動を計画の中に位置づけることの可否の検討も必要かと考える。

(事務局)

県の職業能力開発計画は国の計画に基づいて策定するものであるため、記載内容の範囲については検討していきたい。

④その他について

(会長)

5年前も会長として第11次計画を策定したが、この5年で何が変わったかを説明いただきたい。

(事務局)

コロナを機にDXが加速した。DXは5年間継続的に取組んできた内容ではあるが、AIも含めあらゆる産業で活用していく必要があり、この部分の強化は今後も重要であると考え

る。
また、転職希望者が増えており、雇用のあり方が変わってきている。自律的なキャリア形成やリスクリング等を今後重視したい。

(委員)

女子商業高校からのインターンシップを受け入れる中で、電気工事業へのイメージが変わったと就職される方もいる。違う分野に目を向けていくことも必要であると考え

(事務局)

仕事を選ぶ時に、いろんな選択肢があることを子どものころから知っておくことが必要である。学校との連携という観点で組み込んでいきたい。

6 閉 会